

かごしま社会教育 iin だより

「委員」を「iin」と表記しているのは、「i」は形から「人」、「n」は「nexus」の頭文字ととらえて、人と人とのつながり、きずなをもつ意味をアレンジしました。

第1号 令和8年3月発行
鹿児島県社会教育委員連絡協議会
鹿児島市鴨池新町10番1号
(鹿児島県教育庁社会教育課内)

発刊にあたって

鹿児島県社会教育委員連絡協議会
会長 岩橋恵子



昨年度の九州ブロック社会教育研究大会では、県内各地の社会教育委員をはじめ関係者のご協力のおかげで、約600人の参加を得て、県内外の社会教育の動きを学ぶと同時に、社会教育関係者と交流を図り実践を学びあうことができました。

その時に改めて気付かされたのが、視野を広くもった社会教育情報と実践交流の大切さでした。地域内だけにとどまることなく、各地で頑張っておられる社会教育委員や関係者のみなさんとの学び合い、意見交換によって得られる日々の実践へのヒントや展望、そして悩みとともにエネルギーを共有できる得難い機会でした。

「社会教育iinだより」は、鹿児島県社会教育委員同士(なんと県内には622人が在籍!)に、先に紹介した大会のような情報交換と実践交流の場になればとの思いで誕生しました。さらにネット上に載せることで、県民の方々にも社会教育委員の活動を知ってもらう機会になることを願っています。

皆様からのご意見や実践情報をお寄せいただき、未永く育てていただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



社会教育委員とは? < 社会教育法参照 >

- 1 社会教育に関する計画の立案
 - 地域の代表として、社会教育に関する計画を策定する。
 - 行政と連携し、地域の社会教育を推進する。
- 2 教育委員会への助言
 - 定期的または臨時の会議を開催し、教育委員会の諮問に応じて意見を述べる。
- 3 研究調査の実施
 - 社会教育に関する計画や意見を述べるために必要な調査・研究を行う。
例:社会教育施設の利用促進のための施設見学や実態調査・意識調査を実施。
- 4 青少年教育に関する助言と指導
 - 市町村の教育委員会から委嘱を受け、社会教育団体や指導者に助言・指導を行う。

※ 社会教育委員は、幅広い分野から選任され、地域社会の教育活動を支える重要な役割を担っています。地域の課題解決や社会教育の充実に向けて、関係者と協力しながら活動することが重要です。

鹿児島県社会教育委員の会議による 審議のまとめを公表

県社会教育委員の会議では、鹿児島県教育長の諮問を受け、令和6・7年度の2年間にわたり審議してきた、「地域を支える次世代の人づくり～郷土(ふるさと)のよさを生かしたかごしまの創り手の育成～」について審議のまとめを作成しました。

「共に育つ、大人と子どもの育ちあい」「つながりを大事にした、共に育つ地域づくり」「郷土(ふるさと)のよさを生かした地域共創社会を目指す仕組みづくり」として視点をまとめるとともに、県下の50団体近くの社会教育実践調査(アンケート及び現地調査)を踏まえ、具体的事例を紹介しつつ次の3点を提言しています。

- 1 異年齢集団・多文化共生で育む体験・学びあい活動の推進
- 2 学校・家庭・地域・各種団体・NPO・企業等の連携・協働の促進
- 3 郷土(ふるさと)のよさを生かした未来をつくる地域教育力の継承・発展

鹿児島県ホームページ>教育・文化・交流
>家庭・地域・社会教育>生涯学習・社会教育
>社会教育委員の会議>社会教育委員の会議
「審議のまとめ」>審議のまとめ(令和7年度)

2月24日に県教育長に提出、年度内に市町村教育委員会に送付される予定です。各市町村社会教育委員の会議においても、地域での社会教育実践に生かしていただきたいと思っています。



令和8年1月23日
県社会教育委員の会議

鹿児島県内社会教育委員の会議の委員構成（令和7年9月1日現在）

地区	市町村名	社会教育委員								
		条例定数	現員数	内 訳						その他
				学校教育	社会教育	家庭教育	学識経験者	公募委員		
鹿児島	鹿児島市	20	20	4	6	4	6	0	0	
	日置市	13	11	3	3	3	2	0	0	
	いちき串木野市	20	19	4	11	2	2	0	0	
	三島村	12	12	4	8	0	0	0	0	
南薩	十島村	14	14	7	7	0	0	0	0	
	枕崎市	20	14	3	6	2	3	0	0	
	指宿市	15	12	3	5	2	2	0	0	
北薩	南さつま市	20	20	3	15	1	1	0	0	
	南九州市	15	14	3	9	0	1	0	1	
	阿久根市	15	15	2	8	2	3	0	0	
	出水市	20	15	3	9	1	2	0	0	
	薩摩川内市	16	16	2	5	2	3	0	4	
始良・伊佐	さつま町	30	21	4	5	5	7	0	0	
	長島町	14	14	2	8	3	1	0	0	
	霧島市	15	13	3	4	4	2	0	0	
	伊佐市	15	13	3	1	1	1	0	7	
大隅	始良市	15	15	2	5	1	4	0	3	
	湧水町	12	12	1	8	3	0	0	0	
	鹿屋市	20	15	3	4	5	3	0	0	
	垂水市	20	16	3	5	1	2	0	5	
	曾於市	13	12	1	6	1	0	0	4	
	志布志市	20	15	3	7	1	3	0	1	
	大崎町	15	15	2	9	1	2	0	1	
	東串良町	15	12	1	6	4	1	0	0	
熊毛	錦江町	20	20	1	17	0	2	0	0	
	南大隅町	15	12	1	9	0	2	0	0	
	肝付町	14	13	3	7	2	1	0	0	
	西之表市	20	20	3	17	0	0	0	0	
大島	中種子町	24	18	3	14	0	1	0	0	
	南種子町	16	10	3	5	1	0	0	1	
	屋久島町	20	13	3	8	0	2	0	0	
	奄美市	15	15	2	8	1	4	0	0	
	大和村	10	7	2	1	0	1	3	0	
	宇検村	9	9	1	6	0	0	0	2	
	瀬戸内町	15	14	3	7	3	1	0	0	
	龍郷町	18	12	2	7	0	0	0	3	
	喜界町	15	15	3	11	0	1	0	0	
	徳之島町	12	11	4	4	1	2	0	0	
	天城町	10	8	1	3	0	0	0	4	
県	伊仙町	12	7	3	0	0	0	0	4	
	和泊町	20	19	3	9	1	1	0	5	
	知名町	15	15	3	7	0	2	0	3	
	与論町	12	8	1	4	2	1	0	0	
	鹿児島県	21	21	4	5	2	8	2	0	
県内教育委員会 合計		717	622	118	309	62	80	5	48	

鹿児島県下の社会教育委員の会議の委員構成です。県下にはおよそ600人余りの方々が委嘱を受け、会議への参加やまたそれぞれにご活躍をされています。

昨今ますます混とんとする世界状況となっておりますが、その情報を目の当たりにしながら、地域社会の動きも少しずつ変化してきています。これまでの団体活動も変わり、組織そのものも減退していく状況が多く見られるようになりました。

孤立孤独化していく人々が多くなっていくだろう現実に、「つなぐ」つながろう」という言葉もあちこちに見られるようにもなりました。『人は皆つながっていたい』という想いがどこかに本能的にあるのかも知れません。

そのつながりをつくる。様々な手段をもって人がつながることをサポートしていく。これこそが、社会教育委員の仕事ではないかと最近改めて思います。それぞれの立場でつながりをつくり、人の行き来を創り出し、地域の豊かさに繋いでいく。

人の笑顔は自分の笑顔にもつながります。社会教育委員としての認識をもち、醍醐味を味わいながら元気に過ごしてまいりましょう。

令和7年度 全国・九州・県大会参加の報告

- ☆ 令和7年5月20日 鹿児島県社会教育委員連絡協議会総会・研修会：県市町村自治会館
- ☆ 令和7年10月29日～31日 全国社会教育委員連合会総会・研究大会：岩手県盛岡市
- ☆ 令和7年11月13日～14日 九州ブロック社会教育研究大会福岡大会：福岡県福岡市

令和7年度鹿児島県社会教育委員連絡協議会総会・研修会



5月20日に県内各地から61人の参加を得て、鹿児島県社会教育委員連絡協議会総会と研修会が県市町村自治会館において行われました。

総会では、岩橋社会教育委員連絡協議会会長及び橋口県社会教育課課長からのあいさつの後、岩橋会長の司会で議事が進められました。令和6年度事業報告・収支決算（九州ブロック社会教育研究大会鹿児島大会含む）・監査報告、及び令和7年度事業計画・収支予算・役員について協議され議決されました。

今年度の方針に関わって特に議論あるいは確認されたのは以下の点でした。

- 昨年度九州ブロック社会教育研究大会鹿児島大会において72万円近くの残額があったが、それは数年後の全国社会教育研究大会鹿児島大会準備金として県社会教育委員連絡協議会事務局が管理する。
- これまで市町村に提供してきた全国社会教育委員連合会機関紙『社教情報』の予算確保が困難であることから、今後どのように取り扱うかについて各市町村にアンケートを実施し、それに基づいて対応する。
- 県下の社会教育委員の活動の交流と情報共有のための『鹿児島県社会教育委員だより(仮称)』を発行する。



第67回全国社会教育研究大会

第67回全国社会教育研究大会が、「共に学び支えあう社会教育の実践～ウェルビーイングの実現に向けて～」をテーマに、令和7年10月29日から31日の3日間岩手県盛岡市において開催されました。鹿児島県からは2人が参加しました。

研究大会に先立ち、**全国社会教育委員連合会の総会**が行われ、来年度大阪で実施される全国研究大会の計画及び社会教育委員連絡協議会役員

研修会では、上野景三氏（佐賀県社会教育委員連絡協議会会長、西九州大学副学長）から「社会教育委員活動の新たな取組」の講演があり、社会と地域の変化の中で、「活動する社会教育委員の会議」をめざす佐賀県での挑戦的な社会教育委員の取組が紹介されました。「地域・家庭の変化を情報収集し把握する」ことの重要性や、社会教育委員の会議では諮問答申だけでなく「社会教育委員の意見を反映したテーマ設定とその施策の進捗の点検や学習」も進めること、さらに教育委員との懇談会を行い「地域の教育計画を教育委員と共通認識」を図る等々示唆に富むものでした。

講演後のグループ討議では、「情報収集をもっと意識しなくてはならないことを痛感した」「委員は地域での重要な役割を担うという意識（プライド）をもつことが重要なことに気づいた」「社会教育委員の中だけでなく、他の教育機関との連携が大切」など、社会教育委員の役割やこれからについて展望する多くの意見が聞かれました。



研修会の様子

の追加選出が行われました。

全体会では、歓迎アトラクションと開会式の後、表彰式が行われ、鹿児島県からは吉松幸夫さん（枕崎市）、富敏紀さん（与論町）が表彰されました。

続く記念講演は、本間希樹さん（国立天文台水沢VLBI観測所所長）から、宮沢賢治の作品にも大きな影響を与えた岩手・水沢で行われてきた天文学研究が興味深く語られました。遠いと思っていた

宇宙や銀河が私たちと深くつながっていることに気づかされた貴重な時間となりました。

全体会の最後は「共に学び支えあう社会教育の実践～ウェルビーイングの実現に向けた社会教育の役割とは～」と題されたシンポジウムでした。障害の有無に関わらず若者が共に学びあう公民館での「コーヒーハウス」の実践（東京都国立市）、外国ルーツの親子支援の実践（埼玉県川口市）、ひとり親家庭など社会的排除リスクの高い人々への支援と誰もが生き生きと暮らしていける包摂された地域づくりに取り組んでいるNPO法人インクルいわての実践（岩手県）の事例が報告され、社会教育でいま大切なことは、誰もが共に学び支えあう時間や多様な人が支えあう場であること、そして実践者自身が幸せであることであることが共感をもって語り合われました。

大会最終日は、**5つの分科会**「社会教育委員の役割」「家庭教育支援」「学校・地域の連携・協働」「人づくり・つながりづくり・地域づくり」「公民館（社

会教育施設）の役割」が行われました。第1分科会では、岩手県から地域づくりや教育振興運動における社会教育委員の関わりについて、また仙台市から社会教育委員の会議の進め方・在り方について、いずれも大変エネルギーが詰まった会議や活動の実践展開の報告がありました。充実したこうした委員の会議や活動の在り方に、会場からは、「活動や会議の多さへの負担感は?」「社会教育委員による諮問答申や提言はどのように生かされているのか?」など活発な質疑応答がありました。



第1分科会の様子



第55回九州ブロック社会教育研究大会・福岡大会

九州ブロック社会教育研究大会が「社会教育の可能性—新しい時代の風 地域コミュニティを支える社会教育の実践」をテーマに、福岡市で行われました。鹿児島県からは31人が参加しました。

初日の11月13日は、「つながりづくり・地域づくり」「持続可能な社会の担い手の育成」「誰もが学び続けることができる学びたくなる環境づくり」「学校・家庭・地域の連携・協働」をテーマとした**4つの分科会**が展開されました。第4分科会では、鹿児島県大崎町から岡元修一さんが「笑顔でつながる持留—世代と地域を結ぶ協働の輪」と題して、事例発表をされました。住民たちで立ち上げ、今では地域の文化として定着し始めている地域のお祭りや、住民が生み出した創作の軽スポーツを通しての世代交流による地域の活性化が紹介され、地域力の低下が進む要因は少子高齢化ではなく、地域に対する住民の無関心にあるのではないかと問題提起され、多くの参加者から賛同の声が上がっていました。

2日目14日の**全体会**では、開会行事に続いて、島根県教育委員会教育長の野頭健二さんによる

記念講演「地域コミュニティを支える社会教育の可能性」が行われました。少子・高齢化の進行・地域運営の担い手不足の深刻化の中で取り組まれた「小さな拠点づくり」についての実践が熱く語られました。なかでも、地域力を高めるための鍵として、社会教育主事や社会教育委員など「人と人をつなぐスペシャリスト」の存在に着目するとともに、島根県独自の認証・登録制度「しまね社会教育師認証制度」「しまね社会教育サポーター登録制度」を設け、地域で生きるための住民のつながりづくりに果たしている社会教育実践が語られ、参加者は自らの実践に多くの示唆と展望を得ることができました。

来年は、熊本で行われます。熊本地震を教訓にした防災教育について学び合うことなどが計画されています。鹿児島からも多くの参加が望まれます。



事例発表する岡元さん

こども・若者のキャリア開発の一環として、社会教育や社会福祉の領域で15年ほど活動を行ってきました。現在は桜島の古里地域で、廃校活用と宿の運営を行いながら、学習機会を提供しています。

学習という形式ではなく「体験」や「桜島の営み」という切り口で参加のハードルを下げ、催しの開催、島内の体験プログラムのマッチングを行っています。前者の催しでは、季節の野菜を収穫し調理する体験、宿のお客さんのお話を聞く会、地域課題と向き合う成人や大学生向けの研修などを行い、後者の体験プログラムでは、火山ガイドや、郷土料理づくり、陶芸体験などの受付窓口となり、島内の事業所さんをおつなぎしています。私個人は狩猟体験、ベーコンづくり、島内裏ガイド(集落・小道案内、お墓見学)などを担っています。

ある農家さんで冬の野菜の収穫をした時のことです。かやを畑にまく土づくりを春に始め、農薬はもちろん水や肥料も最低限しかあげない独自の生育方法を取り入れている農家さん。関東から来島したお客さんは、きゃべつ・白菜・小松菜などを収穫しつつ、その場で野菜を味見してお店で売られている野菜との違いに感動していました。

すると「なぜこんなに、野菜がおいしいのだろう。」と疑問をもち、農家さんに尋ねました。農家さんは「土づくりがポイント」だと言いました。お客さんは収穫のためのゴム手袋を外し、直接土を触ると驚いたそうです。「土がふわふわで、そして温かい。こんな体験は初めてです。これはなぜですか?」「それは微生物が活発になり、土が発酵しているから。」と農家さ

んが応えました。すると他の参加者も手袋を外し、土を直接触り、驚きが連鎖しました。

宿に戻って収穫した野菜を調理し、食事を囲みながらいろいろ話しました。当たり前だが野菜は自然環境で育つこと、市場の野菜は農家さんが思いを込めて育てていること、都会と地方では違う豊かさがあることに気が付き、とても満足そうでした。農家さんは「私たちが当たり前に行っていることを、あんなに喜んでもらえてとても嬉しい。でも不思議だ(笑)」と話しました。その後お客さんは島内に空き家を買って、定期的に桜島に来てくれるようになりました。



関東のお客さんが、農作業をしている様子

「日常の惰性的な生活のなかで閉ざされた私たちの心を、旅は開かれた、予感に満ちたものにする。」と、哲学者の中村雄二郎氏。私は活動を通じて、旅と社会教育は大変相性が良いと感じています。未知との出会いがお互いを啓発し、豊かな時間を生み出し、終わりと共に日常にかえる。気付いたら日常の風景が少し変わって見える。学びの形はしていないが、そんな社会教育的機会だったと改めて認識しています。

私たちは地域外の人や偶然の力を借りた社会教育を、もっと信じて良いかもと心からそう思います。

私たちは地域外の人や偶然の力を借りた社会教育を、もっと信じて良いかもと心からそう思います。

変わりゆく社会のなかで

地域活動を始めて、ミニミニ紙発行の頃から数えると三十年余りになる。この地に移り住み、地域のことは何も知らずわからずで、「もっと知りたいマイタウンよしの」として地域情報紙の発行を十年近く続けた。

おかげで地域のヒト・モノ・ココロを綴り続けるうちに、どっぶり地域人となり、さらにNPO活動として、平成十七年から福祉・安心安全・地域文化の創造と地域の課題に向けて年月を重ね、活動も二十年余りとなった。

三十年も過ぎると、「まち」も「ひと」のつながりも変わった。時代の流れとともに情報はネットでも入手し、わからないこと探してもネット、人とつながらなくてもネットがすべてを教えてくれる。私は、「人は人の中でしか育たない」というポリシーをもち、活動を展開してきた。人の顔を見て感情を読み取りながら対話をする。そのなかで人は育ち合うものだと。

最近では、AIが対話をしてくれるようになり文章も作成してくれるようになったが、そのおおもとは、常に人が情報機器に入力をする内容を集約してのこと。「ことば」で人は育ち、「ことば」が感情を伝える。人間である限り、日本人である限り、言葉のもつ豊かさを大事にして情報社会を造り上げて行く。その伝え合う世界がまさに社会教育につながる。生きる実感は言葉でつながり合う社会だ。実践とともに言葉を大切にして私も活動を続けていきたい。

県社会教育委員

永山恵子△NPO地域サポート

よしのねぎぼうず△

あとがき

第一号、文字を綴る楽しさを味わいながら編集させていただきました。光栄なこと、感謝いたします。